
fose2014.cls 使用サンプル

An example of use for fose2014.cls

磯崎 秀樹* 徳川 家康†

あらまし これは, fose2014.cls スタイルファイルを利用し, L^AT_EX でフォーマットした FOSE2014 の論文サンプルです.

- 論文本文が和文の場合, 和文・英文のいずれかでアブストラクトを書いて下さい. 両方併記することもできます. 英文アブストラクトを書く場合は eabstract 環境 (`\begin{eabstract}~\end{eabstract}`) を使ってください.
- 本文が英文の場合は, `\documentclass[english]{fose2014}` コマンドを利用して下さい. また, 和文タイトル・和文著者名・和文アブストラクトを併記する必要はありません.

Summary. This document has been prepared as a sample for typesetting FOSE2014 papers using the FOSE2014 L^AT_EX style file.

1 ワークショップの目的

情報技術の普及がソフトウェアの適用範囲をますます広げていく今, ソフトウェアを社会基盤となる知的資産として活用するため, ソフトウェア工学はさらに格段の進歩をとげなければなりません. FOSEはこの挑戦に向けてさまざまな基礎技術を確立することをめざし, 研究者・技術者の議論の場を提供するものです.

2 ワークショップ開催概要

FOSE2014 [?] は以下の要領で開催する予定です.

日程 2014 年 12 月 11 日 (木)~13 日 (土)

場所 霧島国際ホテル (鹿児島県・霧島温泉) 〒 899-6603 鹿児島県霧島市牧園町高千穂 3930 番地

主催 日本ソフトウェア科学会 ソフトウェア工学の基礎研究会

共催 IEEE Computer Society Japan Chapter

協賛 情報処理学会 ソフトウェア工学研究会,
電子情報通信学会 ソフトウェアサイエンス研究会,
電子情報通信学会 知能ソフトウェア工学研究会

3 書式に関して

3.1 ヘッダとフッタ

カバーページを除く奇数ページのヘッダには, 英語論文タイトルが来ます. 英語タイトルが長すぎたり, 任意の位置で改行したい場合には `\journalhead{The Title}` を利用して下さい. 偶数ページのヘッダには「FOSE2014」が来ます. フッタは空となるように設定してください.

3.2 箇条書き

- 項目 1
- 項目 2
 - 項目 2-1

*Hideki Isozaki, NTT 基礎研究所

†Ieyasu Tokugawa, 江戸幕府

- 項目 2-2
- 1. 項目 3 (項番付き)
 - (a) 項目 3-1 (項番付き)
 - (b) 項目 3-2 (項番付き)

3.3 表と図

表の例を表??に、図の例を図??に示します。

表 1 表の例

FOSE2001	ソフトウェア工学の基礎 VIII	杉山 安洋, 藤田ハミド 編
FOSE2002	ソフトウェア工学の基礎 IX	井上 克郎 編
FOSE2003	ソフトウェア工学の基礎 X	鯉坂 恒夫, 満田 成紀 編
FOSE2004	ソフトウェア工学の基礎 XI	野呂 昌満, 山本 晋一郎 編
FOSE2005	ソフトウェア工学の基礎 XII	権藤 克彦, 小林 隆志 編
FOSE2006	ソフトウェア工学の基礎 XIII	沢田 篤史, 丸山 勝久 編
FOSE2007	ソフトウェア工学の基礎 XIV	岸 知二, 野田 夏子 編
FOSE2008	ソフトウェア工学の基礎 XV	松下 誠, 川口 真司 編
FOSE2010	ソフトウェア工学の基礎 XVII	高田 眞吾, 福田 浩章 編
FOSE2011	ソフトウェア工学の基礎 XVIII	門田 暁人, 上野 秀剛 編
FOSE2012	ソフトウェア工学の基礎 XIX	鷗林 尚靖, 亀井 靖高 編
FOSE2013	ソフトウェア工学の基礎 XX	岡野 浩三, 関澤 俊弦 編



図 1 図の例 (FOSE2005 のロゴを使わせてもらっております)

謝辞 本フォーマットを作成して頂いた方々に感謝します。

参考文献

- [1] 杉山 安洋, 藤田 ハミド 編: ソフトウェア工学の基礎 VIII, 日本ソフトウェア科学会 FOSE2001, 近代科学社, 2001.
- [2] 井上 克郎 編: ソフトウェア工学の基礎 IX, 日本ソフトウェア科学会 FOSE2002, 近代科学社, 2002.
- [3] 鯉坂 恒夫, 満田 成紀 編: ソフトウェア工学の基礎 X, 日本ソフトウェア科学会 FOSE2003, 近代科学社, 2003.
- [4] 野呂 昌満, 山本 晋一郎 編: ソフトウェア工学の基礎 XI, 日本ソフトウェア科学会 FOSE2004, 近代科学社, 2004.
- [5] 権藤 克彦, 小林 隆志 編: ソフトウェア工学の基礎 XII, 日本ソフトウェア科学会 FOSE2005, 近代科学社, 2005.
- [6] 沢田 篤史, 丸山 勝久 編: ソフトウェア工学の基礎 XIII, 日本ソフトウェア科学会 FOSE2006, 近代科学社, 2006.
- [7] 岸 知二, 野田 夏子 編: ソフトウェア工学の基礎 XIV, 日本ソフトウェア科学会 FOSE2007, 近代科学社, 2007.
- [8] 松下 誠, 川口 真司 編: ソフトウェア工学の基礎 XV, 日本ソフトウェア科学会 FOSE2008, 近代科学社, 2008.

An example of use for fose2014.cls

- [9] 第16回ソフトウェア工学の基礎ワークショップ, <http://www.washi.cs.waseda.ac.jp/fose2009/>, 2009.
- [10] 高田 眞吾, 福田 浩章 編:ソフトウェア工学の基礎 XVII, 日本ソフトウェア科学会 *FOSE2010*, 近代科学社, 2010.
- [11] 門田 暁人, 上野 秀剛 編:ソフトウェア工学の基礎 XVIII, 日本ソフトウェア科学会 *FOSE2011*, 近代科学社, 2011.
- [12] 鵜林 尚靖, 亀井 靖高 編:ソフトウェア工学の基礎 XIX, 日本ソフトウェア科学会 *FOSE2012*, 近代科学社, 2012.
- [13] 岡野 浩三, 関澤 俊弦 編:ソフトウェア工学の基礎 XX, 日本ソフトウェア科学会 *FOSE2013*, 近代科学社, 2013.
- [14] 花川 典子, 尾花 将輝 編:ソフトウェア工学の基礎 XXI, 日本ソフトウェア科学会 *FOSE2014*, 近代科学社, 2014. (to appear)